

新生

Tokyo Institute of Technology
2004

国立大学法人
東京工業大学

持続的に進化する 国立大学法人東京工業大学

2004年4月1日、“国立大学法人東京工業大学”が誕生しました。国立大学法人を設置者とする、新生“東京工業大学”のスタートでもあります。

グローバル化された知識社会を迎え、大学に対する社会的要請は、一段と多様化するとともに、高度化・複雑化してきました。こうした時代の変化に呼応して、大学改革が世界的に進められています。文部科学省は、世界に通じる大学づくりを指向して、高等教育史上画期的な変革である、国立大学法人化を断行しました。個々の国立大学が法人格を獲得し、独自の個性を発揮できる新体制のもとで、それぞれの大学の使命を果たすときを迎えたのであります。

国立大学法人東京工業大学は、東京工業大学の使命を達成するための、学長主導であり、社会に開かれた運営組織です。国立大学法人法では、学長と理事による執行体制と、監事及び学長選考会議が規定されています。学長は意思決定に先立ち、役員会の議決、教育・研究評議会および経営協議会の審議を経なければなりません。しかし、これでは、学長が十分にリーダーシップを発揮できません。そこで、執行体制のもとに、企画室、評価室、教育推進室、研究戦略室、産学連携推進本部、国際室、財務管理室等、それぞれの担当理事を室長とし、教員・事務職員が融合した、本学独自の強力な戦略的運営体制を構築いたしました。

新生“東京工業大学”は、120余年に及ぶ、輝く歴史と伝統を継承しつつ、

我が国を代表する“理工系総合大学・研究大学”

であることを積極的にイメージアップいたします。さらに、東京工業大学は

“世界最高の理工系総合大学の実現”

を長期目標に掲げ、次のような中期目標の下、スパイラルに進化を続けます。

1. 国際的リーダーシップを発揮する、創造性豊かな人材の育成

特色ある教育支援プログラムに指定された“進化する創造性教育”等、本学独自の教育プログラムによって、様々な分野でリーダーとなりうる人材を、学部・大学院で育成します。教育環境・学生支援体制の整備も怠りません。

2. 世界に誇る知の創造

独創的・萌芽的研究の活性化を図り、“知のフロンティアを拓く”とともに、すでに国際水準にある9件の“21世紀COE”を全学体制で重点推進します。

3. 知の活用による社会貢献

産学連携推進本部で、知の評価、知財管理、産学連携、起業化支援等、TLOとも連携し、組織的・体系的に実施します。



国立大学法人東京工業大学
学長 相澤 益男

世界をリードする理工系総合大学

スパイラルアップに進化する

世界に通じる

人材の育成

- 国際的リーダーシップ
- 豊かな創造性
- 特色ある教育プログラム
- 四大学連合



P5,6

世界に誇る

知の創造

- 知のフロンティアを拓く
- 世界的研究拠点形成
- 21世紀COEプログラム
- 評価と資源配分



P7,8

世界に誇る

知の活用

- 知の評価, 知財化
- 産学連携
- 国際連携
- 社会貢献



P9,10

東京工業大学

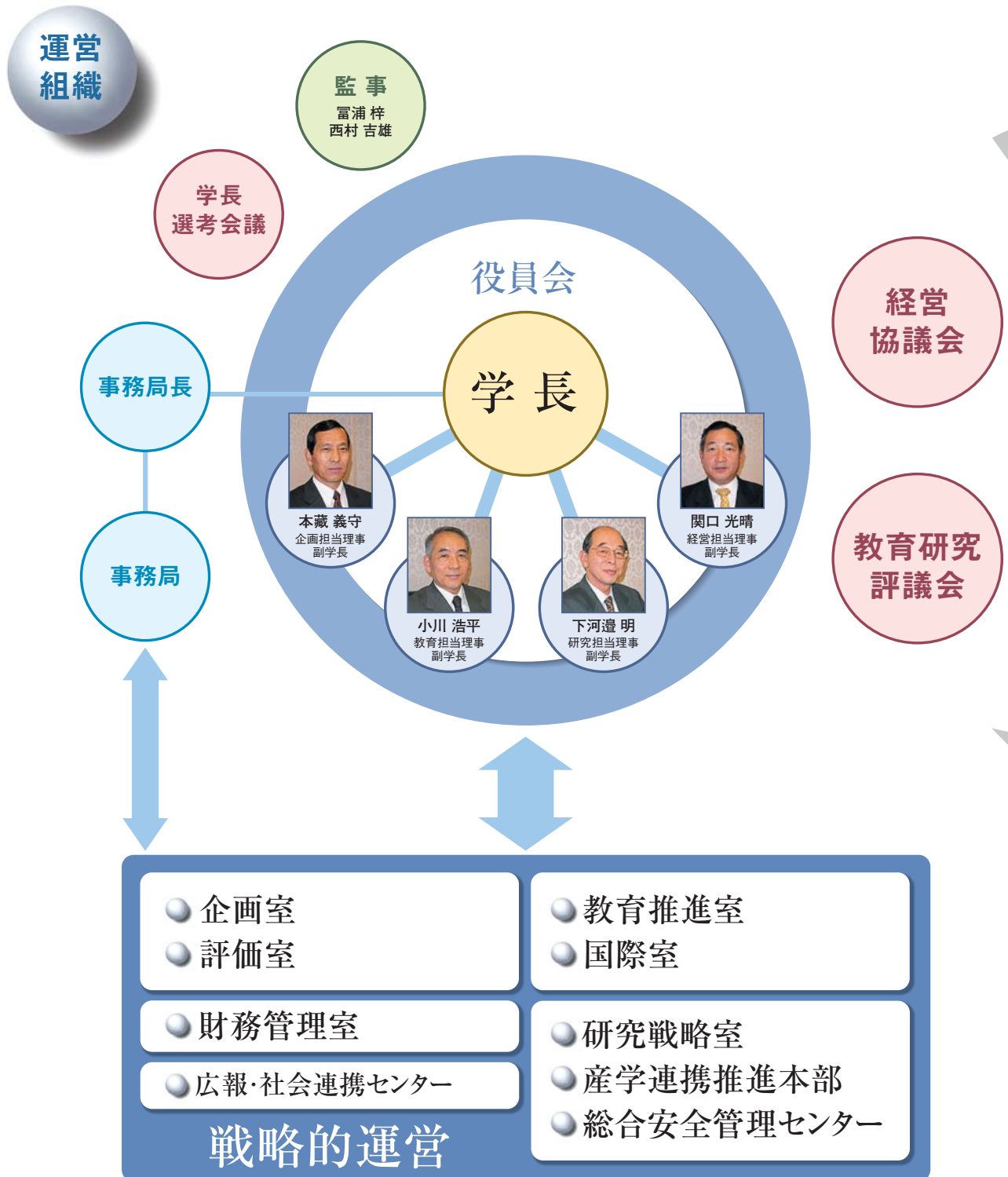
国立大学法人東京工業大学

戦略的運営

P3,4

評価・資源配分

国立大学法人東京工業大学



東京工業大学

教育研究
組織

大学院

- 理工学研究科
- 生命理工学研究科
- 総合理工学研究科
- 情報理工学研究科
- 社会理工学研究科

学 部

- 理学部
- 工学部
- 生命理工学部

工学部附属
工業高等学校

特色ある教育プログラム
21世紀COE (9件)

イノベーション研究推進体

附置研究所

- 資源化学研究所
- 精密工学研究所
- 応用セラミックス研究所
- 原子炉工学研究所

附属図書館

- 外国語研究教育センター
- 学術国際情報センター
- フロンティア創造
共同研究センター
- 量子ナノエレクトロニクス
研究センター
- 他20施設

学内共同教育研究施設

Tokyo Tech 2004

世界に通じる 人材を育成する

「国際的リーダーシップ」を備え、「豊かな創造性」を培う。

2つの力を持つ人材育成に向け、

本学の教育システムは、さらに進化し発展します。

博士

■ 学力

- 特定の分野の極めて高度な専門学力
- 科学技術全般にわたる広い学識を修養

問題探求能力

■ 素養

- 確固たる国際的リーダーシップ力



修士

■ 学力

- 理工系基礎学力に裏打ちされた
特定分野の高度な専門学力を修養

問題解決能力

■ 素養

- 優れたコミュニケーション力
- 学界及び産業界におけるリーダーシップ力

学士

■ 学力

- 幅広い理工系基礎学力をしっかりと修養
- 特定の分野に高い関心を有する人材

■ 素養

- コミュニケーション力
- 幅広い教養（芸術や人文社会系に対する理解力）
- 科学技術倫理の理解力（知的体力／人間力）

Topics

東工大リーダーシップ賞

学生のリーダーシップ育成の一助として、平成14年度に制定されました。

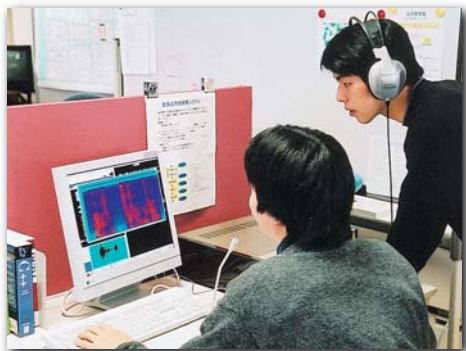
知力、創造力、人間力、活気に溢れた学部2、3年生を対象とした表彰制度で、学長を含めた本学教授陣の前でのプレゼンテーションなどを行い受賞者を決定します。これまでに9名の学生が受賞しています。

Topics

進化する創造性教育

平成15年度に文部科学省が公募した「特色ある大学教育支援プログラム」(通称:COL)に、本学は「進化する創造性教育」というテーマで申請し、採択されました。

教育推進室が中心となり、学内で行われてきた創造性教育の体系、実績を取りまとめたもので、本学の教育システムへの高評価を示しています。



「多様性の時代」に対応した、 新たなプログラムの導入と充実を図る

様々な価値観が産み出される21世紀、本学は学生一人ひとりが個性を發揮できるように、次のような取り組みを積極的に行います。

- 国際交流協定校を中心とした短期留学、インターンシップなどのプログラムの充実
- 国際会議・集会などにおける運営、研究発表などの機会の付与
- 1年次から積極的に専門科目を履修させる「逆くさび型教育」の導入
- 「四大学連合」の連携を一層深め、異なる分野を融合した学科、専攻などの設置
- 学生の多様性に応じた、転類、転学科等の自由度の拡大

Key word

■ 四大学連合

新しい人材の育成と教育研究の更なる推進を図ることを目的として、平成13年度に結成された東京医科歯科大学、東京外国語大学、一橋大学との四大学連合。最初の本格的活動として、複合領域コースが設置され、学生により多くの選択肢を提供するとともに、他大学の学生との人的ネットワーク獲得など、学問だけでなく様々な意味で幅を広げるチャンスとなっています。



工学部情報工学科4年生
金子 雅也
複合領域コースのうち、
「技術と経営コース」を履修

履修学生の声

私が3年次から参加している一橋大学商学部の沼上幹先生のゼミナール(経営戦略論・経営組織論)は、本を熟読することとじっくり議論することを大事にしており、社会現象について深く考える楽しみを知ることができました。また、ゼミのメンバーも個性派揃いで、毎週の議論、合宿、神戸大学への遠征、そして卒業論文への取り組み等の中で彼らと切磋琢磨できることは、自分にとって大変大きな糧となっています。

東工大の講義や研究とはまた違った刺激をうけることのできる複合領域コース。東工大の強みである技術力にプラスアルファを求める方は一考してみてくださいいかがでしょうか？

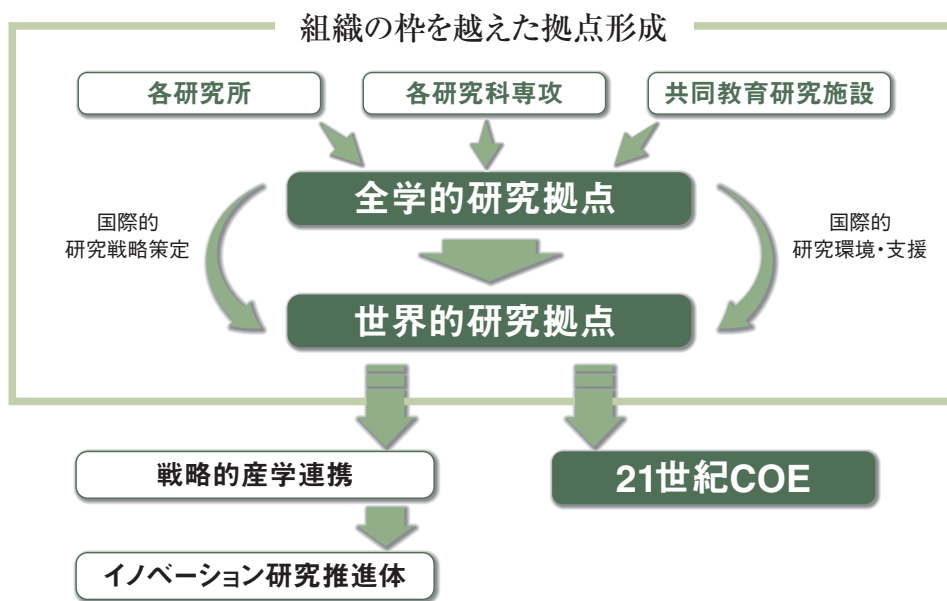
世界に誇る 知を創造し フロンティアを拓く



「研究大学」として、

多くのめざましい成果をあげてきた本学の研究活動。

支援体制はさらに強化され、活動はさらに活性化します。



COE採択拠点一覧

分野名	プログラム名	拠点リーダー名
生命科学	生命工学フロンティアシステム	半田 宏
化学 材料科学	分子多様性の創出と機能開拓	山本 隆一
化学 材料科学	産業化を目指した ナノ材料開拓と人材育成	細野 秀雄
情報 電気 電子	フォトニクスナノデバイス集積工学	荒井 滋久

平成14年度

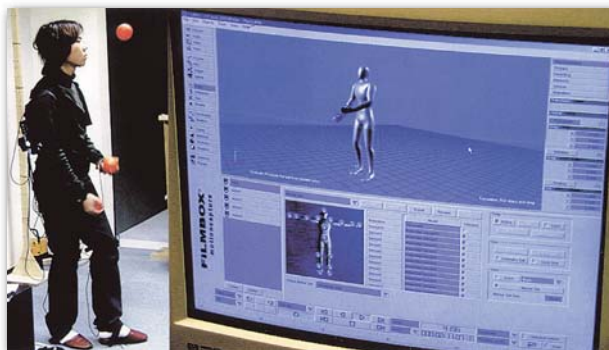
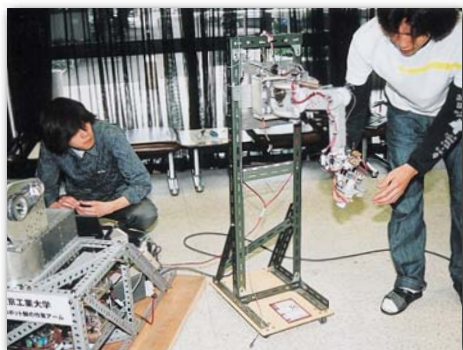
分野名	プログラム名	拠点リーダー名
数学 物理学 地球科学	量子ナノ物理学	安藤 恒也
機械 土木 建築 その他工学	先端ロボット開発を核とした 創造技術の革新	廣瀬 茂男
機械 土木 建築 その他工学	都市地震工学の展開と体系化	大町 達夫
機械 土木 建築 その他工学	世界の持続的発展を支える 革新的原子力	関本 博
学際 複合 新領域	大規模知識資源の体系化と 活用基盤構築	古井 貞熙

平成15年度

Topics

東工大挑戦的研究賞

若手研究者の挑戦的研究の奨励を目的として平成14年に制定されました。
 世界最先端の研究推進、未踏分野の開拓、萌芽的研究の革新的展開などに果敢に挑戦している新進気鋭の研究者が授賞対象で、これまでに20名が受賞しています。



組織の枠を越えた拠点形成と、
 評価に基づく適正な資源配分を行う

これまでも国内外から高く評価されている本学の研究活動をさらに活性化させるため、次のような取り組みを推進します。

- 専攻の枠を越えて組織された
 「21世紀COEプログラム」研究拠点へのあらゆる支援
- 研究組織が、活動しながら得られた成果に基づいて
 その組織自体を変化させてゆく、「進化型研究組織」の形成
- 部局を越えて組織された「イノベーション研究推進体」の活動が
 円滑に行える体制整備
- 研究成果に対する、社会貢献の成果をも含めた厳正な評価
- 評価結果に基づいた適正な資源配分による研究活動の活性化

Key word

外部資金

本学ではこれまでも、科学研究費補助金をはじめ、企業からの奨学寄附金、受託研究費などを積極的に獲得し、常に研究活動の活性化を図るとともに、多くの成果をあげています。

平成14年度実績

単位:百万円

科学研究費補助金 4,112	COE 751	奨学 寄附金 1,055	受託研究費 1,287	共同研究 889
-------------------	------------	--------------------	----------------	-------------

0

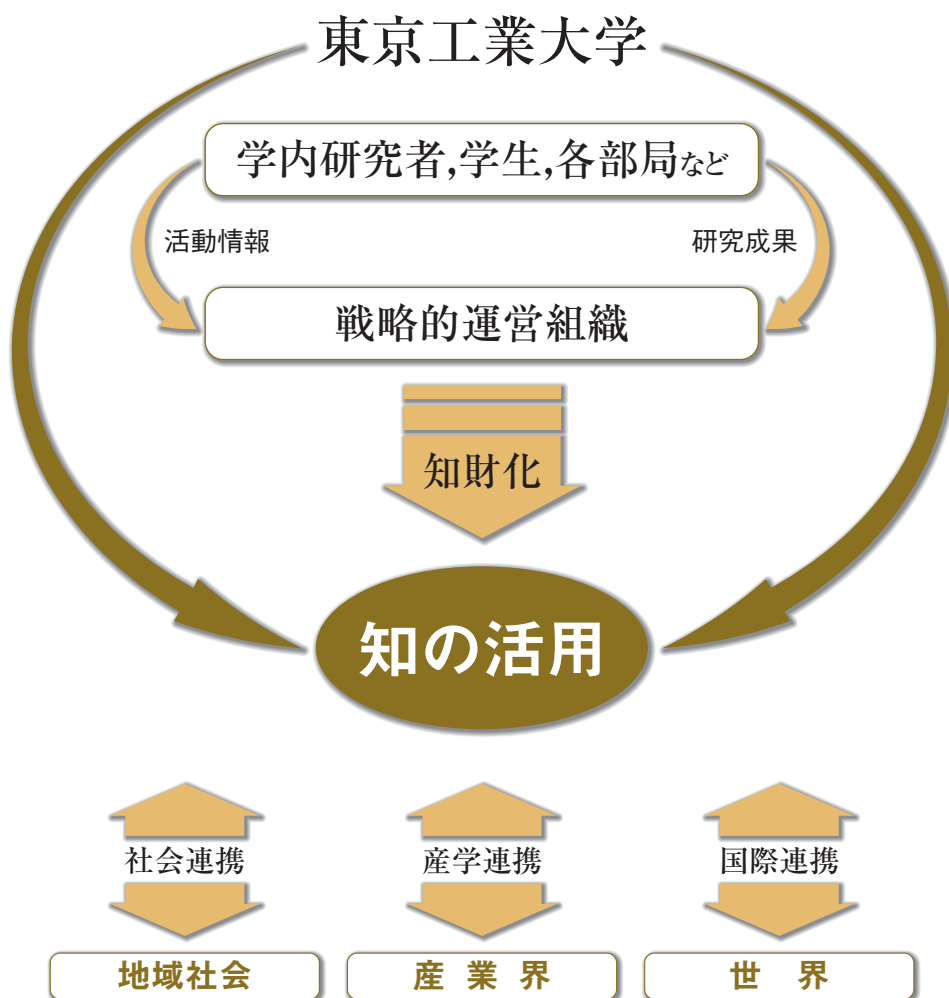
80(億円)

創造した 知を活用し、 社会貢献する

大学の重要な使命の一つである社会への貢献。

本学は、地域社会、産業界、

そして世界と積極的に連携していきます。



Topics

産学連携推進本部

文部科学省知財本部事業の支援により、平成 15 年度に設置されました。

大学における知財にかかわる諸活動は、基本的に産学連携の推進のためのものであるとの見地から、あえて名称を知財本部とはせず、「産学連携推進本部」としました。

本部の位置付けとして、学内に対しては産学連携の全学的窓口として各種の実務を担当し、発明届に始まる知財の維持管理や教員個人レベルでの活動支援、大学組織と産業界との包括的な連携などの交渉を行います。学外に対しては、大学の一元的窓口としての企業交渉をはじめとして、産学連携活動についての広報活動などを担当します。

大学内での知財化をすすめ、 世界との連携、社会貢献を果たす

社会からの様々な要請に応え、地域、世界との連携をすすめるため、次のような体制の整備を行います。

- 創造された知の評価、知財化を実施し、
「産学連携推進本部」のもと知財を一元的に管理
- 共同研究・委託研究の契約、共同利用施設の運営、技術移転、
ベンチャー起業支援体制の強化
- 国際連携に関する十分な情報の配信を行うため、国際広報体制の整備
- 本学海外オフィス、特にアジア地域のオフィスの増加
- 公開講座、オープンキャンパスなど各種イベントの
積極的な広報活動と活動への支援体制整備



Topics

タイ王国国家科学技術開発庁との教育研究協力調印

本学とタイ王国とは、国際交流協定締結、衛星を利用した講義配信、本学初の海外拠点開設、タクシン首相への名誉博士号授与など非常に緊密な関係にあります。

平成 15 年度には、さらなる協力を図るため同国国家科学技術開発庁との間で「太陽電池分野における教育研究協力」に関する調印を行いました。

